

体験レポート

一日看護体験

東名厚木病院

1-day nursing experience

県央地区にある当院は「看護の日」の一端として、毎年夏に高校生を対象に「一日看護体験」を開催しています。新型コロナウイルス感染症蔓延の状況でありましたが、来院前に体調確認をもらい8月18日(木)、8月19日(金)に開催しました。参加者は神奈川県下の高校2・3年生37名でした。

コロナ禍前は、病棟での体験などを交えながら実施していましたが、コロナ後は会議室に体験コーナーを設け、実習指導者の看護師と共に、衛生的手洗い、个人防护具の着脱、車いす・歩行器・杖、点滴速度の調整の看護体験を行いました。また、当院に実習に来ている看護大学・専門学校先生方をお招きし、進学に向けての学校紹介も行いました。

～衛生的手洗い～

実際に手洗いを体験し、「普段の洗い方では汚れが落ちていなくて、丁寧に手洗いしなくてはいけない」という声が聞かれました。



～个人防护具の着脱体験～

「実際に着てみて驚くらしい暑さだったので、現場で働く看護師さんがいかに大変か理解することができました」「私たちの周りにはどんな菌がいるか分からないし、患者さんに菌を感染させない自分も感染しないようにするために大事だと思いました」という声が聞かれました。



～車いす・歩行器・杖の体験～

車いす体験では「使い方を一歩間違えると患者さんを危険にさらしてしまうので、一つ一つ丁寧に言うことが大切だと思いました」という声が聞かれました。



～点滴速度の調整～

「今まで点滴をしたことがあっても、数値や方法については知らなかったので、良い経験になりました」という声が聞かれました。



～学校紹介～

「看護師資格をとるためにはどのような勉強が必要かわかり、進路選択の参考になりました」という声が聞かれました。



～意見交換会～

終了時の意見交換会では「今日の体験を踏まえて、頑張ろうと思いました」「体験を通して、より勉強のモチベーションを高められました」「今まで以上に自分自身もコロナにならないようにして、少しでも医療従事者の方々に助けられたなど思いました」という声が聞かれました。最後に、一日看護体験「参加証明書」を手渡し終了しました。



担当者からのコメント

参加した高校生の多くは「将来看護師になりたい」と気持ちを抱いて参加していました。そのため、看護体験では目を輝かせ、真剣に体験に臨んでいました。今後を担う高校生の方々が、看護職を目指すことに頼もしさと嬉しさを感じました。これからの看護を担う人財となることを期待しています。
(社会医療法人社団三思会東名厚木病院 下島三千代)

※写真は、ご本人の了解のもとに掲載しています。